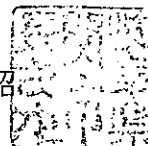


公 第 2 5 号
平成20年10月20日

国土交通省
道路局長 様

関市長 尾藤 義昭



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け、国道企第37号にて依頼のありましたみだしの
意見・提案について、別紙のとおり提出いたします。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岐阜県 関市

1. 関市は、平成17年に5町村と合併し、旧郡部、特に板取地区、上之保地区は高齢者等弱者が多い山間地域であり、道路整備が市民生活を確保する上で最も重要である。安全・安心のまちづくりを進める上でも、バス路線や緊急自動車の通行確保は必須であり、「真に必要な道路」はきちんと整備されるような財源措置をお願いしたい。
2. 道路は地域間の交流、圏域を超えた物流・文化交流のための重要な社会資本であり、当該ルートの完結、完成により初めて地域への波及効果が達成されるものであり、一定区間が可能な限り早期に完成されるような施策をお願いしたい。
3. 道路はそもそも地域性を超えた社会インフラとして統一的な考え方により、国や広域自治体が財源も含めて責任を持って整備すべきものであり、財政的に弱い地域でも問題なく整備されるような施策をお願いしたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

岐阜県 関市

○現状

1. 県都岐阜市と関市を結ぶ幹線道路は国道 156 号で、並行して走る名鉄美濃町線が廃線になり、益々重要なバス路線にもなっているが、朝夕の渋滞がひどく経済的な損失は計り知れない。
2. 平成 17 年に 5 町村と合併した関市は、旧郡部、特に板取地区、上之保地区は山間地域であり、関市中心部との連絡は迂回路が殆どない国道、県道のみであり、いまだ未改良区間がある。

○課題

1. 国道 156 号の東バイパスを早急に整備完成する必要がある。
2. 国道、県道の未改良区間で整備可能な地域から早急に整備する必要がある。

②-2 地域の目指すべき将来像

○ 行きかい、ふれあい、つながりが生まれるまち

・関市は、東海北陸自動車道・東海環状自動車道・国道156号・国道248号・国道256号・国道418号・主要地方道関本巣線・関金山線が通過し、これらの自動車交通の結節点としての優位性を活かした複合的な産業構造を持つ都市を目指す。

・東海環状自動車道の西回りルート、国道156号岐阜東バイパス、国道248号バイパスの早期完成により、これまでにない大規模な交流が生まれ、それによる経済効果が市内全域の活性化に結びつくよう、接続する道路網を整備し、すべての人々が安全・安心に移動し、暮らすことができるようなユニバーサルデザインのまちづくりを進める。

・旧関市を中心としてV字形である新関市の地形上の問題を解決するため、板取方面・上之保方面からも短時間で到着できる道路網の整備により、安心・安全のまちづくりを目指す。

○重点事項 地域活力の向上 総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	○代表事例 ・東海環状自動車道の完成 ・国道１５６号岐阜東バイパス早期完成 ・国道２４８号バイパスの早期完成 ・国道２５６号の整備	○期待する効果や評価等 ・東名・名神・東海北陸・中央の各高速道との連結により、企業誘致や観光面での効果が非常に大きい。 ・岐阜市・関市間の交流はもとより、名鉄廃線後のバス路線強化に寄与し、渋滞緩和で二酸化炭素排出減による地球環境への配慮にもつながる。 ・関市と美濃加茂市・多治見市を結ぶ重要路線の早期完成により、中濃圏域と東濃圏域との交流の促進が期待できる ・山間地域から短時間で安全に緊急車両の移動が可能となり、医療面、防災面での効果が期待できる。	○その他
---	---	---	-------------